

序

腰痛はほとんどの人が生涯のうちで一度は経験し、また多くの人が腰痛のために生活を脅かされている。腰痛の真相究明の研究は長い歴史を辿るが、実際に苦しむ人々に読み砕いて伝えようとする歴史は浅い。腰痛と遺伝、生活習慣やスポーツとの関係、痛みの根源は何か、正しい判断のための診察や検査法、治療法そして予防法などについて多くの基礎研究、臨床研究が重ねられてエビデンスが積み重ねられてきた。重症例の救済やトピックな新知見を提唱する機会は多く設けられてきたが、臨床現場の第一線に立つ医師に腰痛治療全般についてのエッセンスをまとめて届けようとする機会は多くなかったのではないだろうか。

本書「臨床医のための腰痛診断・治療指針」では2012年に出版された腰痛診療ガイドライン（監修：日本整形外科学会/日本腰痛学会）の作成メンバーに執筆をお願いし、臨床医や医療スタッフの方々にも幅広くご利用いただくために実際的で分かりやすく解説をして頂いた。腰痛の定義、疫学、診断および治療についてエビデンスのある最新の論文を十分に吟味した上でそのエッセンスとも言える内容を満載して一冊の本にまとめた。

心因性腰痛が適切な治療を受けることができ、レッドフラッグによる医療過誤がなくなり、専門医への紹介が適切になされ、腰痛治療に福音をもたらすきっかけになることを願っている。

最後にご多忙の中にもかかわらず、ご執筆を頂いた諸先生方に感謝申し上げるとともに、本の企画、編集にご尽力くださった医薬ジャーナル社の皆様に厚く感謝申し上げます。

2017年4月

宮本雅史